

分科会 14

ピアスタッフの働き方について考える

登壇者 佐々木理恵（一般社団法人WING-NETWORK 多機能型事業所すぺいろ）
駿河孝史（社会医療法人未来の風せいわ病院）
伊澤雄一、中林 澄明（社会福祉法人 はらからの家福社会）
長岡千裕
原田幾世（日本ピアスタッフ協会）

この分科会は日本ピアスタッフ協会が担当して行いました。約100名の方が参加してくださいました。最初にどのような立場で参加いただいているのかを挙手にてお伺いしましたが、当事者として、ピアスタッフに関心がある方、ピアスタッフとして勤務されている方等が半分、ピアスタッフと一緒に働いている専門職の方、今後雇用を考えている方等の一般の方が半数と様々な立ち位置の方にご参加いただいていたようです。ご参加いただいた皆様、有難うございました。

私達が今回、この分科会を行う際に考えていたこととしては、「ピアスタッフについてのさわりの分科会やイベントは、これまで色々な所で行われてきたのだから、もう少し掘り下げて、ピアスタッフだからこそその苦悩の部分も含めて参加者の皆様と共有する時間を持つてもいいのではないか」というところから企画に取り組みました。

今回、登壇者は、事業所でピアスタッフとして働き始めて1年程のピアスタッフ、医療現場で働く中堅ピアスタッフ、地域移行等を行うピアサポーターと雇用主というメンバーから、それぞれの自己紹介と現在行っている業務の紹介を行い、その後、参加者の皆様にインタビュアーになっていただき、30分ほどインタビューの時間を設けました。

インタビューの時間では、沢山の皆様から挙手いただき、結局全てに応える事は出来ず、申し訳ない気持ちがあった反面、熱心に参加して下さる皆様がこれだけ沢山いらっしゃるということが分かり有難い気持ちにもなり、日本ピアスタッフ協会として今後続けてこのような機会を持てたらと感じたところです。

後半は、グループワークの時間を持ち、A:「ピアスタッフがりカバリー体験を活かすってどういう事だろう？」 B:「提供する支援をよりよくする為にピアスタッフと一緒にやりたいことは？」というふたつの設問から各グループにどちらかを選択してもらい、付箋紙に簡潔に書き、グルーピングして共通するテーマを見つけてもらって発表という形にしてもらいました。

終わりにアンケートも取らせていただいたのですが、参加者の層が様々だった為、話をもっと聴きたかったという方や、グループワークの時間をもっと取りたかった等、様々な感想が寄せられました。

協会として、多様な参加者の皆様がいる場面での内容の持ち方等が、今後の課題であることを痛感しました。

最後に余談ですが、スーパーバイズというキーワードがインタビュー場面で出たのですが、アンケートには、特に専門職の方から「経験を積んだピアスタッフからスーパーバイズがあると良い」という意見が寄せられ、これも日本ピアスタッフ協会としての今後の課題であると感じました。

《原田幾世（日本ピアスタッフ協会）》